

はじめに

課題解決とは簡単に言えば、困ったことが起きたとき、いちばんよいやりかたで解決する方法のことです。

わたしたちの生活は、課題解決でいっぱいです。

たとえば――

・急に雨が降ってきた。では、傘をさそう。

「なんだ、あたりまえのことじゃない！」と思ったかもしれません。では――

・急に雨が降ってきた。でも、傘を持っていない。

これは困りましたね。しかし、やりかたはいろいろあります。となりにお友達がいて、傘を持っていれば、きつと入れてもらえるでしょう。近くに大きな建物や木があれば、雨やどりできるでしょう。何もなければ「走って帰る」というのも、ひとつの解決方法です。そのとき、あなたがおかれている状況で、いちばんよいやりかたは何でしょうか？ それを考える方法が、課題解決なのです。

わたしたちの人生は、課題解決でいっぱいです。

小学生でも、「明日、テストだ！ どうしよう」「友達とけんかしちゃった。どうしよう」など、課題が常に目の前に立ちまわります。小さな赤ちゃんであっても、「おなかすいた。どうしよう。そうだ！ 泣いて知らせよう」というように、課題を解決しているんですよ。おとなになれば、仕事のことなどで、毎日、難しい課題に取り組むことになります。みなさんのおうちの人、道を歩いているおじさんもおばさん、テレビに出ている有名人も、みんな課題を解決しながら生きているのです。課題解決には、上手なやりかたがあります。

この本では、そのやりかたを「秘伝」と名づけました。みなさんも、この本に出てくる仲良し4人組、マコト、ユウリ、アユム、ヒカルといっしょに、課題解決のための「秘伝」を身につけましょう。

2022年6月

きたがわ たつ お
北川 達夫

はじめに	4
------	---

や ね うら 屋根裏にあったのは……	8
-----------------------	---

だい しょう こま
第1章 困ったなあ、どうしよう……

1 キロのオレンジ	14
-------------	----

2 こわれたボールペン	24
-------------	----

3 コラージュをやりたい！	32
---------------	----

4 わす ものぼくめつだいさくせん 忘れ物撲滅大作戦！	40
--------------------------------	----

5 こんなこと、言えない……	50
----------------	----

6 やま だ せんせい たんじょう び 山田先生の誕生日！	58
----------------------------------	----

7 ダンス！ ダンス！ ダンス！	66
------------------	----

8 フリーマーケットをやろう！	74
-----------------	----

9 にん き みせ つく 人気のお店を作るには	82
----------------------------	----

10 ベトナムからの転校生	92
---------------	----

11 カモノハシ^{けんてい}検定^うを受けたい！ ————— 100

12 ^よ世^{なか}の中を^{はつめい}よくする発明 ————— 108

だい しょう ひ でん しよ 第2章 「秘伝の書」のヒミツ

「^{ひ でん}秘伝^{しよ}の書」のヒミツ ————— 116

^か課題^{だい}解決^{かい}のヒケツ ————— 120

ホトトギス^{わす}を^{わす}忘れるべからず ————— 123

おわりに ————— 127

や ね うら 屋根裏にあったのは……

3月のある日、マコトは友達3人と家で遊んで
いました。いつもの仲良し4人組です。

「きゃー！ ハチが来た！ 何とかして！」

マコトが大声でお父さんを呼びました。



マコト

けいかくどお とく い
コツコツと計画通りにやるのが得意。

うんどう すこ にか て
運動は少し苦手。

す た もの
好きな食べ物はマーマレード。

「なんだ、このハチは刺したりしないよ。いやな
ら、外に出しちゃいなさい。」

「どうやったらいいか、わからない。やってよ！」

とう
お父さんはマコトを^みながら、ふうと^{いき}ため息を
つき、^{かみ}グラスと^{つか}紙を使ってハチをそっとつかまえ、
^{そと}外に^だ出しました。

^{すこ}少し^{あと}後、^{にん}4人が^{あそ}リビングで遊んでいると、ユウ
リが^と飛ばした^{かみ ひ こう き}紙飛行機が、^{でん き}電気のかさにひっか
かってしまいました。



ユウリ

みんなとわいわい楽しむのが好き。
^{おも}思いこんだら^つ突き進むタイプ。
^す好きな教科は^{きょう か}体育と^{たいいく}図工^{ず こう}。

「^て手が^{とど}届かない。^{たす}助けて！」

ユウリはマコトのお父さん^{とう}を^よ呼びに^い行きました。

お父^{とう}さんは、それを見^みて言^いいました。

「これは手^てが届^{とど}かないなあ。何か長^{なが}いものでつ^なつ^がいて落^おとしたら？」

「ええ？ どうやったらいいか、わからないよ。」

お父^{とう}さんは、やれやれという顔^{かお}で、ほうきでつ^ついて落^おとしてくれました。

数^{すうじつ}日^ご後、いつものように4人^{にん}がマコトの家^{いえ}の前^{まえ}の公園^{こうえん}で遊^{あそ}んでいると、ボールが木^きにひっかかってしまいました。

「ねえ、ねえー！ 困^{こま}っちゃった！」

ヒカルやアユムがマコトのお父^{とう}さん^{たす}に助^{もと}けを求めました。

「やれやれ。きみたちも4月^{がづ}からは5年^{ねんせい}生^{せい}なんだし、少しは自分^{すこ}で考^{じぶん}えなさいよ。屋^{かんが}根^が裏^がに虫^やとり^{ねうら}あみがあるから、自分^{じぶん}たちで取^とりなさい。」

お父^{とう}さんはあきれたように言^いいました。

アユム

やさしい^{せいかく}性格。

みんなといっしょにやる
ことで、力^{ちから}がわいてがん
ばれるタイプ。好きなこ
とは読書^{どくしょ}。



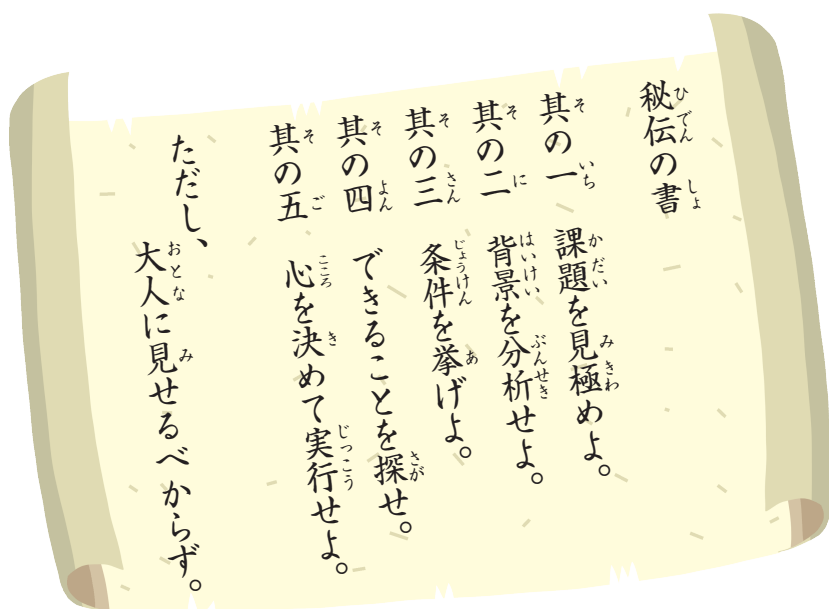
ヒカル

はっそうりよく^{ゆた}
発想力が豊か。

なにかをぶんかい^{ぶんかい}したり、そう
像^{ぞう}したりするのが好き^す。

おもしろい検定^{けんてい}をたくさ
ん受^うけている。

みんなが^や屋根裏^{ねうら}に^あ上がったところ、^み見たことも
ない^{まきもの}巻物^めが^{はい}目^めに入りました。



「あれ？ なんか^{たから}お宝^{まきもの}っぽい巻物があるよ。」

「『^{おとな}大人^みに見せるべからず』だって。何^{なん}なの^しか知
りたいけど、マコトのお父さんには聞けないね。」

「^も持^だち出さないほうがいいよね。メモしよう！」

4人は^{にん}そう^い言^あい合^とって、メモを取りました。

さて、この「^{ひでん}秘伝^{しょ}の書」。いったいどんな^い意味^み
をもつものなのでしょう……。

だいしょう 第1章

こま
困ったなあ、どうしよう……



1 1キロのオレンジ



ある日の夕方、スーパーマーケットの果物売り
場でのことです。お父さんが持ち上げたオレンジ
の袋を見て、マコトは声をあげました。

「あれ？ どこにも重^{おも}さが書^かいてないよ。」

「ほんとう。困^{こま}ったね。何^{なに}が課^か題^{だい}か、見^み極^{きわ}めよう！」

お父^{とう}さんが言^いいました。

「課^か題^{だい}……？ 見^み極^{きわ}める……？」

マコトが首^{くび}をかしげると、お父^{とう}さんが言^いいます。

「そう。なんとなく『困^{こま}った！』というのではなく、困^{こま}っていることは何^{なん}なのかをきちん^{かくにん}と確認^{かくにん}しよう。」

「そっか。今^{いま}、困^{こま}っているのは、オレンジの袋^{ふくろ}に重^{おも}さが書^かいてないこと。」

「なるほど。その背景^{はいけい}は？」

「は、はいけい？ どういうこと？」

マコトは目^めをぱちくりさせました。

「オレンジの袋^{ふくろ}に重^{おも}さが書^かいてないと困^{こま}るのは、マコトに何^{なに}かしたいことがあるからだろう？」

「あ、そういうことか。うーん、その背景^{はいけい}は、ちゃんとオレンジを1キロ分^{ぶん}買^かいたってことかな。」